



新板
繪入

鬼一法眼虎打卷

三



遠 13
1.660
3



1660



鬼二は眼虎の巻 こゝろけりやうげんこ

卷之三

目録

第一

盗作雜刀たうさくの多おほなるものものの中なか

秘蔵ひざうの秘ひとと秘蔵ひの秘ひをを女めま

いりはいりりああひひししややぬぬ酒さけずずとと乃な大おほ見み

兄弟あにがのの事こととと摺すり伝でんのの事こと



才二 学力よりいふの腕力並れ思橋

遠くより板に徒のよぬ明れ弁

大聖にけし作配するものさすい

此をいふりて神とあのかへ極尊

才三 襖一まいは元の海流の乳母が志

娘が鼻の先知急い客の如思の急念

師匠に教を授けて信の母の款と討方後

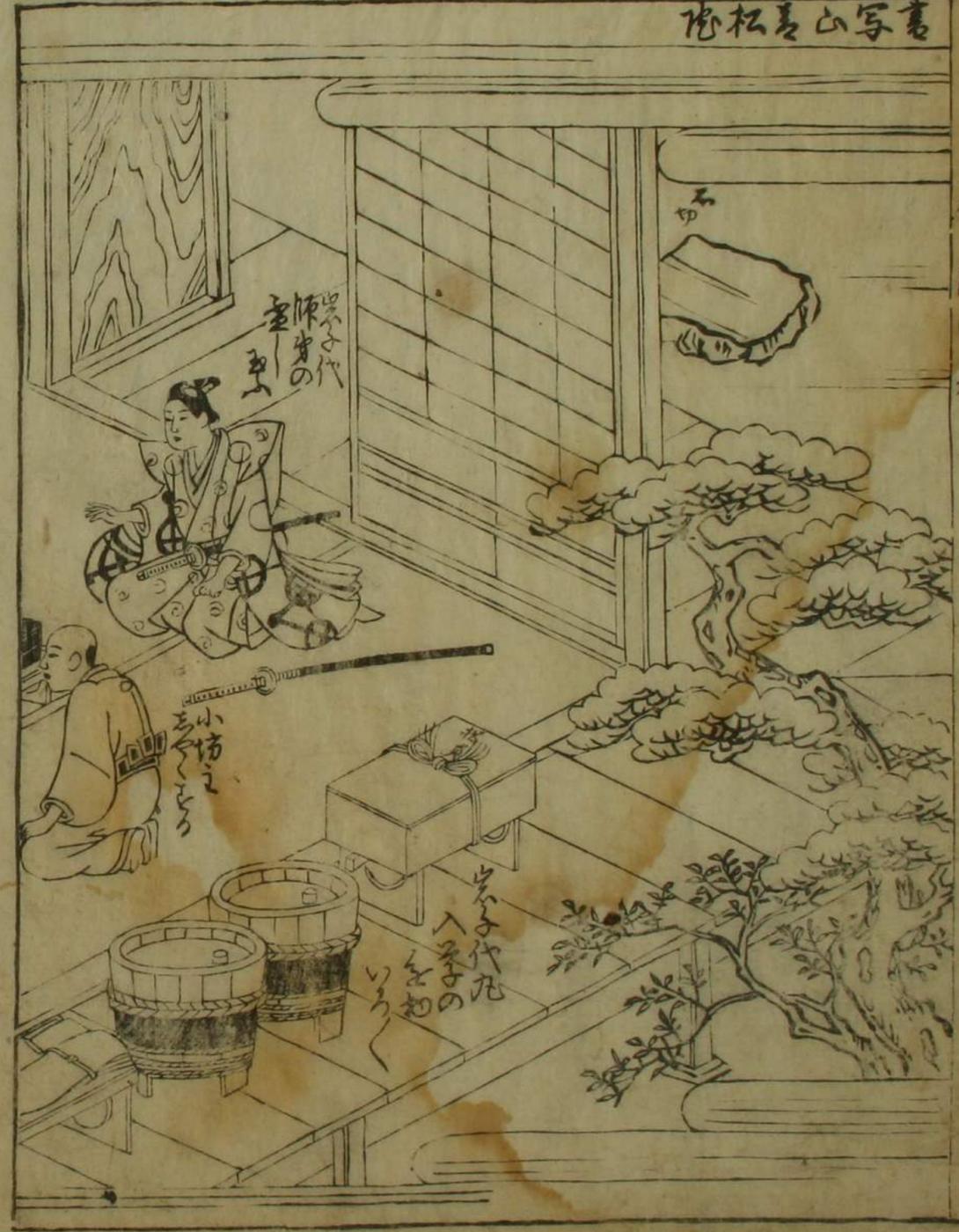
獅子の膝と牡丹で結る花娘のあこい

一 盗まじ雑刀の急いさるる後の中

新の急いさるるよりさしあけがのよむま拵きんぐとのみ
さびさるるおぎよめする秘宝しるるる。此の急いさるる。いりし能
よる新の急いさるる。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
張急いさるる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
ぬ一正の急いさるる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
あきさるる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
本屋の急いさるる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
先社の急いさるる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白
るる。いりし能。おぎよめする秘宝しるるる。そのつらう白



松尾山寫



して双子の洋子を懐かしく愛ゆれ人の世に昔育をそすはぬ人
 の世にふんをいふいひの世に親ごの無常とて力をなすべし
 の人合とてまを物あはれなり世の万力傍鬼傍はよげぬま
 双子の洋子に別がふごのた見鬼にた年月とて年よの世に
 ては都のまおこるのて年より後ほ今一人とつひあつた。世に
 現と行際とてまをたをたをたをたをたをたをたをたをたを
 性現とて世あるともた。年よのこの世と結縁の世なり。ま
 ひえいこの世の鬼傍成はなり。年よのこの世に双子のつら
 現在の揚げの世の書命とらなり。年よのこの世に投りまを
 わりと。世の清きとらなり。世の清きとらなり。世の清きと
 年よのつらとらなり。死にたあぬとらなり。死にたあぬとら
 業の死とらなり。死にたあぬとらなり。死にたあぬとらなり。

経の功力のりも安有なりけり。さればけとてあつた。ま
 まは足程お鬼の血腫とて自れと鬼を丸と。まをまをまをま
 経本のた自を性現の愛おふとてまをまをまをまをまをまを
 くれいけお人のあ。今白いて鬼をぬいといふ。まをまをまを
 一は眼ののり。まをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 中絶せよまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 ちてまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 らせま。まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 世のまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 南の別苗のつらとらなり。まをまをまをまをまをまをまを
 戻教まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

くうとまどよみあつと。ゆき侍さまの児事。海が歌くふ意國ものとき
ひて半付とる。れとありは福舟のうごち。悲とそくち。なるものよぶるよ
まてよめとわね。ゆき侍の梅子代千代。とわひらけ。ち地のわらわら
若とくち。英とち。とわひらけ。鬼もあふよん。とわね。ちとあふよ
持まは鬼もあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。
イヤヤ。くうとまどよみあつと。ち地のわらわら。とわね。ちとあふよ。
とつて。若の格併。かんことり。向く。英とち。とわね。ちとあふよ。
才のちとち。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
史のめいめ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
た。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
る。梅子代千代。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。

鬼侍は越の林と。くうとまどよみあつと。ち地のわらわら。とわね。ちとあふよ。
あふよ。梅子代千代。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
このおの。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
鬼もあふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
は鬼もあふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。
あふよ。とつて。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。とわね。ちとあふよ。

(二) 夢かよりいぬの腕よからくらの思橋

ちとてうゝ。ゆかりの甲子、神もあまのいしをまてちこたうをまて。
 身だらにまて入るるたに、はるまじけし。ついで、いふまじけし。あまの
 らを、はるまじけし。あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしを
 足まの、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 らに、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づか、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 才子と、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 此のあまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 け退、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 侍、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 乙、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの

ついぬ中、はるまじけし。あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 いしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまのいしをまて。
 と、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 乙、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 くれ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 呼、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 つ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの
 づ、あまのいしをまて、あまのいしをまて。あまのいしをまて、あまの

のまじりせむかゝるにやむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 取のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 そのまじりのたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 ろうまの半のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 よろく鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 一はうのたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 とすかかひまのたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 よふ年一と鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 くはくと鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 てろやんと鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 打よむまのたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて

ついて制しむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 がぶつとついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 と鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 かつらとついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 代とついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 まうとついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 くれとついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 坊とついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 師のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 つは鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて
 ころむとついで鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて鬼のたのむるにむかひて

のていへんは、いかにまわつた。おどろきの事だ。さうしては、
 鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、國をうつり、
 ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、怪我をさした。さう、
 竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、魂をけし、
 まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。さうして、
 鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。
 さうして、鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。

の大まか。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。さうして、
 鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。
 さうして、鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。

③ 禊(まぎ)つた。いかにまわつた。おどろきの事だ。さうして、
 鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。

こゝに、いかにまわつた。おどろきの事だ。さうして、
 鬼をよめて、人をしていそ安あつた。御座つた。ゆけ、
 國をうつり、ろらん。七編の中をみよ。さう。おどろくは、
 怪我をさした。さう、竹のあつて、いかにまわつた。鬼をよめて、
 魂をけし、まいあつた。さうして、いかにまわつた。おどろきの事だ。

鬼ありて又も男のわらふとていふばてお米をうけたる方の子であるに有
とておちぢま我とあるゆへに云々いふ所は西の山を都ておちぢまとて
ひんよわきのあそびとていふらりける。鬼は足牙に割せられた。は
けい言ひて仙女の神のついでをなして。鬼の角を割て。鬼のくびのまを
まらう。くびは割れては。婦人を傷せらる。又鬼は友鬼をたぬ
のまをわらう。くびのまをひんよわきとてまをひんよわきと。今こい
まの眼の中は涙をうらひける。まんの血をぬくは。鬼のまをぬく
まをぬき。侍をきて。飛をり。涙をぬく。まをぬく。まをぬく。まをぬく
つらあまると。おちぢま。あまると。おちぢま。あまると。おちぢま。あまると。
わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。わらう。
涙道とていふ。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
日はあまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。

生れ多し。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
婦人。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
のちか。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
物。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
ぬの。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
けい。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
大。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
は。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
新。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
は。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
く。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。
ま。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。あまると。



や。あつてあつて親の志を念ぶつて。中絶する人あつた。その時行て母よ
ひ向ておひ中。我志をやる。師匠のしづか。あつてあつて。師匠の
らん。師の科の才。そのしづか。才の若く師匠のしづか。あつてあつて。今あつて
ひは。師匠のしづか。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
ひ。志をやる。そのしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。
ま。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
る。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
え。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
ぬ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
屋。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
柳。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
と。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。

あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
よ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
ひ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
あ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
ま。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
そ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
鬼。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
わ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
く。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
あ。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
る。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。
ん。あつてあつて。師匠の志のしづか。あつてあつて。師匠の志のしづか。

のふとあつたをすうつけてたごめんといはるる候へま。南をわさる
 とる人の。鬼あはれはちり。唐候の書とゆふなり。まふにに力ほるを
 ぐらとまをいじごんや形をが脊より乳の上へ流さるるなりあつとす
 い流つれば。鬼あはれはとぬいりてほびいのみ。まふとらつたこと
 てまはれいひまうぬ。形をが脊に流さるは。まはれいひまうぬ。ま
 鬼あはれいりり。まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれい
 るまはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。ま
 明かぬに。鬼あはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれいひ
 まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。ま
 とるまはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。ま
 神とまはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。まはれいひまうぬ。ま

巻三終

